

# 「おでかけなんじい」の運行・利用状況について

令和元年6月

南 城 市

# 1 「おでかけなんじい」の現在の運行形態

- 平成 29 年 10 月より 20 時便が廃止されており、平成 30 年度も引き続き、8 時台～19 時台で運行しています。

表 1.平成 30 年度の「おでかけなんじい」の運行形態

項目	内容
名称	おでかけなんじい
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域及び沖縄県立向陽高等学校（八重瀬町字港川 150 番地）
利用対象	南城市を訪れる観光客及び南城市民（年齢制限なし）
利用料金	一人一律、1 回 300 円（未就学児は無料） 12 枚綴り 3,000 円の回数券を発行
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行（フルデマンド）
運行曜日	平日・休日(土日祝)の毎日 ※12/31～1/3 は除く
運行時間帯・運行便数	●8～20 時（8 時台～19 時台の 1 時間ごとに運行） ●平日 9 時台～18 時台、土曜日の 11～16 時台は 3 台/時運行 ●その他の時間帯は 2 台/時運行
運行車両台数	最大 3 台(10 人乗り車両)
利用方法	観光客は登録不要。南城市民は登録制で、利用したい便の 30 分前までに電話にて予約。ただし、8 時台は前日までの予約が必要。
運営体制	運行業務及びオペレート業務は、地方自治法に基づく随意契約で選定。

表 2.平成 30 年度の「おでかけなんじい」の運行台数

曜日	時間帯											
	8 時	9 時	10 時	11 時	12 時	13 時	14 時	15 時	16 時	17 時	18 時	19 時
平日	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
土曜日	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2
日祝日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2



図-1.「おでかけなんじい」のデザイン

## 2 「おでかけなんじい」の運行・利用状況

### 2.1 運行状況

#### (1) 運行便数

●一日当たりの運行便数は安定しており、平成30年度は概ね31便/日で推移しています。

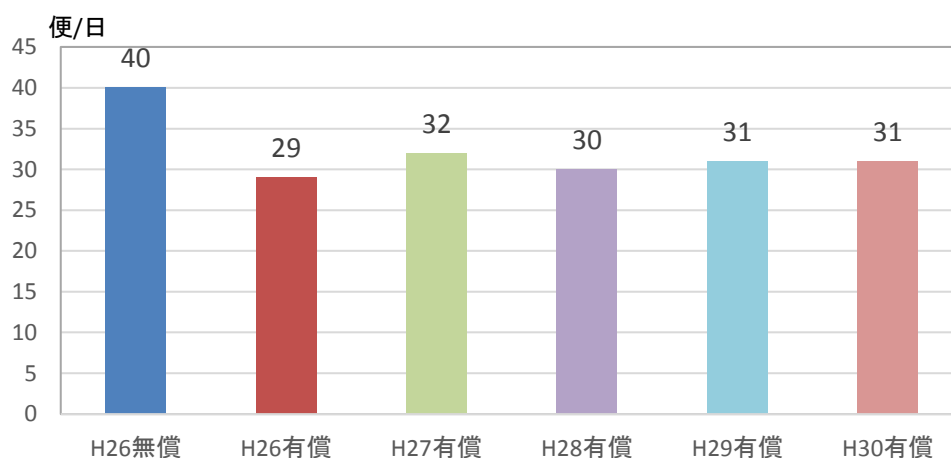


図-2.「おでかけなんじい」の運行便数の推移(年度別)

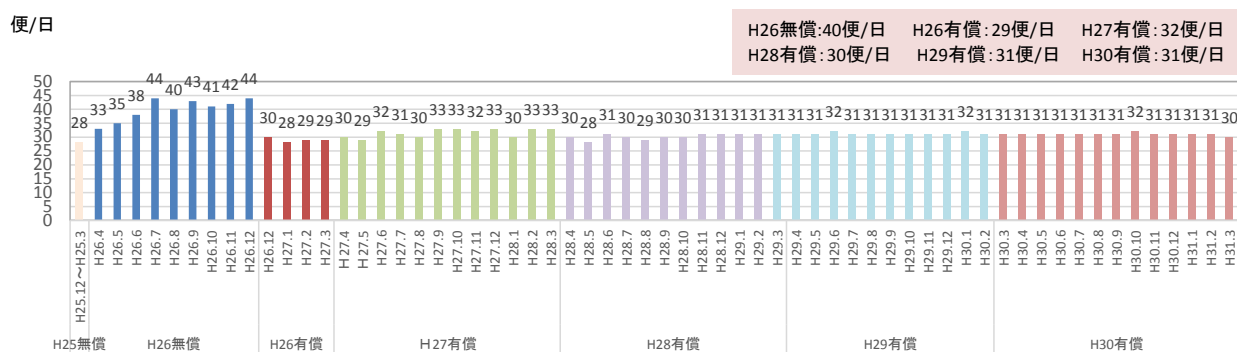


図-3.「おでかけなんじい」の運行便数の推移(実績ベース)

(2) 平均乗車人員

●平成 30 年度における平均乗車人員は 2.5~3.0 人/便前後で推移しています。

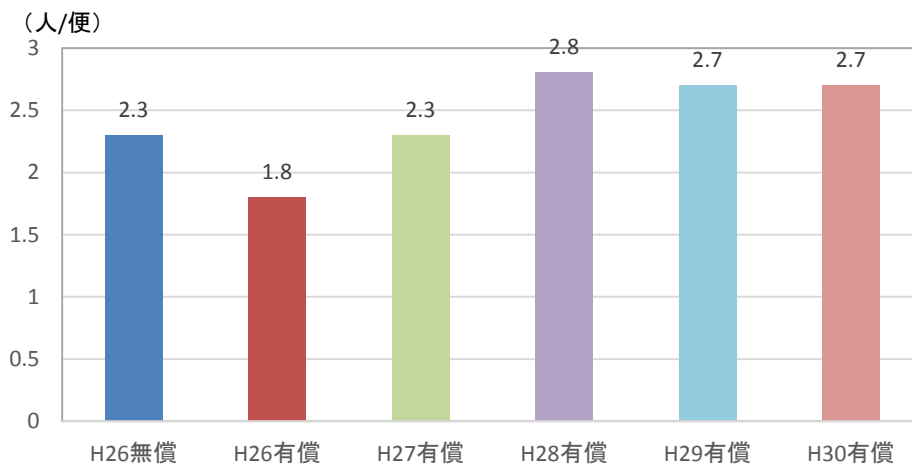


図-4.「おでけなんじい」の平均乗車人員の推移(年度別)

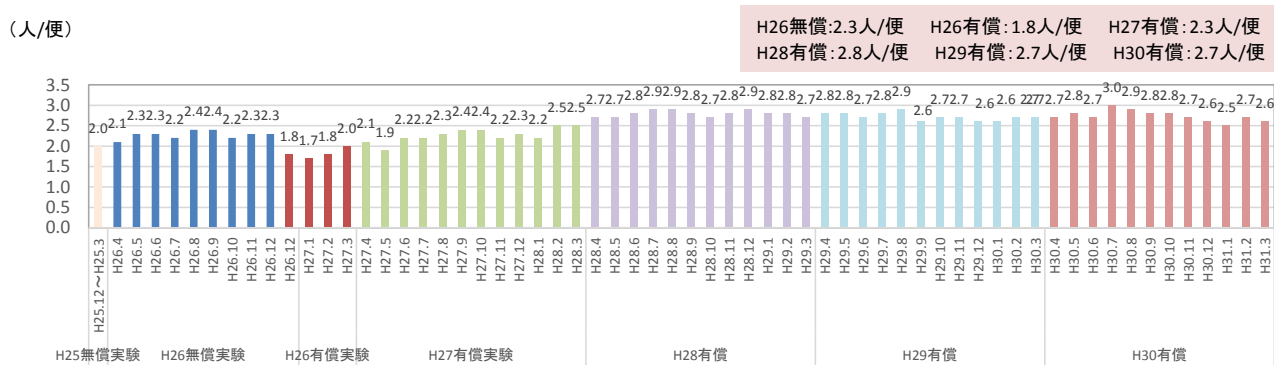


図-5.「おでけなんじい」の平均乗車人員の推移

## 2.2 登録状況

- 「おでかけなんじい」の登録者数は平成31年3月で5,347人と、1年前の平成30年3月の4,769人から1年間で578人増加しています。

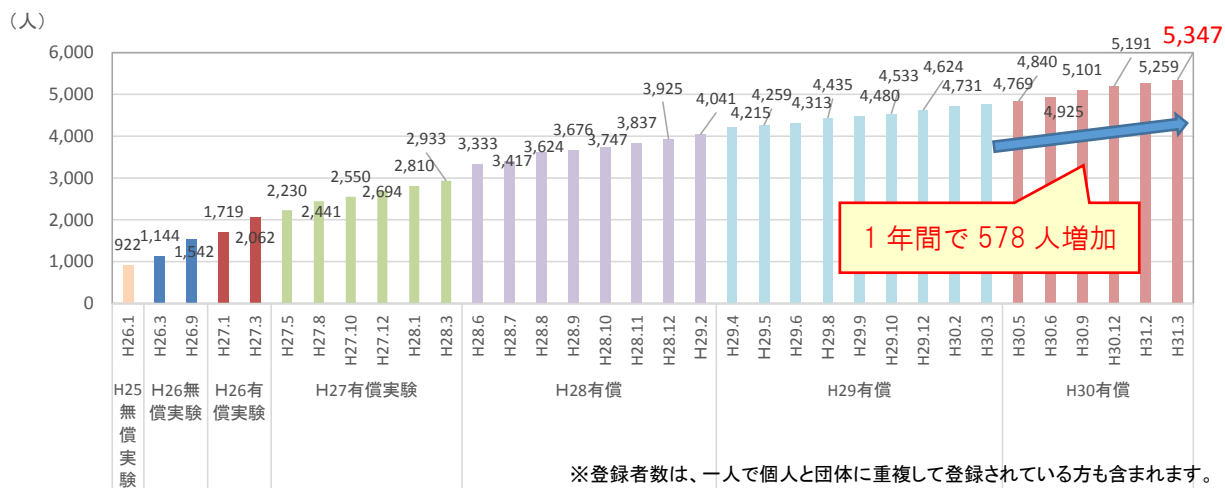


図-6.「おでかけなんじい」の登録者数の推移

## 2.3 利用状況

### (1) 利用者数

- 平成 28 年度以降、「おでかけなんじい」の年間の利用者数は、約 30,000 人で推移しています。
- 平成 30 年度は延べ 29,642 人が利用し、観光客も含めて **3,217 人（実利用者）**の方が利用しました。
- 実利用者 3,217 人の内訳は、市民 1,973 人、観光客 1,244 人となっています。
- 実利用者 3,217 人の利用頻度をみると、「月に 1 回以下」が 87.7%と 9 割近くを占めています。
- 平成 30 年度でもっとも多く利用した方は、448 回利用しています。
- 利用は特定の方に集中しており、平均して週に 4 回以上利用している上位 27 人（実利用者 3,217 人の上位 0.8%）で全利用の 23.5%を占めています。
- 同様に、上位 92 人（実利用者 3,217 人の上位 2.8%）で全利用の 47%と約半分を、上位 397 人（実利用者 3,217 人の上位 12.2%）で全利用の約 8 割を占めています。

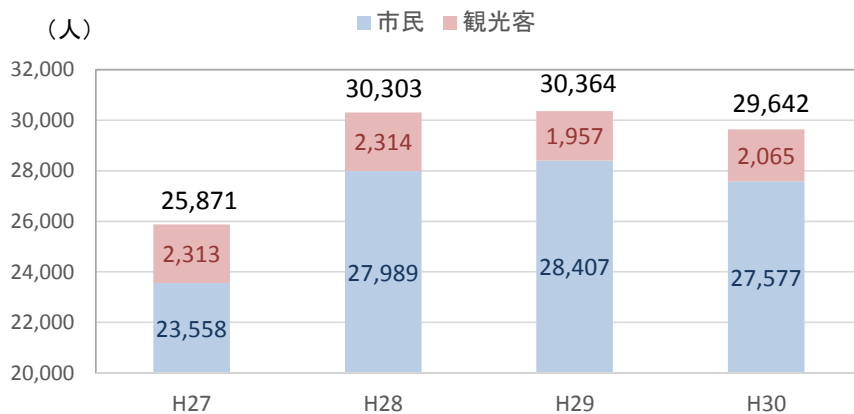


図-7.「おでかけなんじい」の利用者数の推移

表 1.実利用者の利用頻度別の人数と利用者数

区分	年間利用回数	人数		利用回数	
		人数	構成比	回数	構成比
月に 1 回以下	1~12	2,820	87.7%	6,532	22.0%
月に 1~2 回程度	13~24	145	4.5%	2,569	8.7%
月に 2~3 回	25~36	72	2.2%	2,129	7.2%
月に 3~4 回	37~48	40	1.2%	1,699	5.7%
週に 1 回程度	49~72	48	1.5%	2,773	9.4%
週に 2 回程度	73~108	36	1.1%	3,203	10.8%
週に 3 回程度	109~156	29	0.9%	3,758	12.7%
週に 4 回以上	157~	27	0.8%	6,979	23.5%
		3,217	100.0%	29,642	100.0%

上位 2.8%で全利用の 47%を占める。

(2) 1日当たりの利用者数の推移

- 1日当たりの平均利用者数は、平成30年度においては82.8人/日となっています。
- 有償化以降、平成28年度までは、年々利用者数が増加してきましたが、平成28年度以降は概ね横ばいで推移しており、後述するように予約の断り件数も増えてきていることから、輸送力は、ほぼ限界に達していると考えられます。

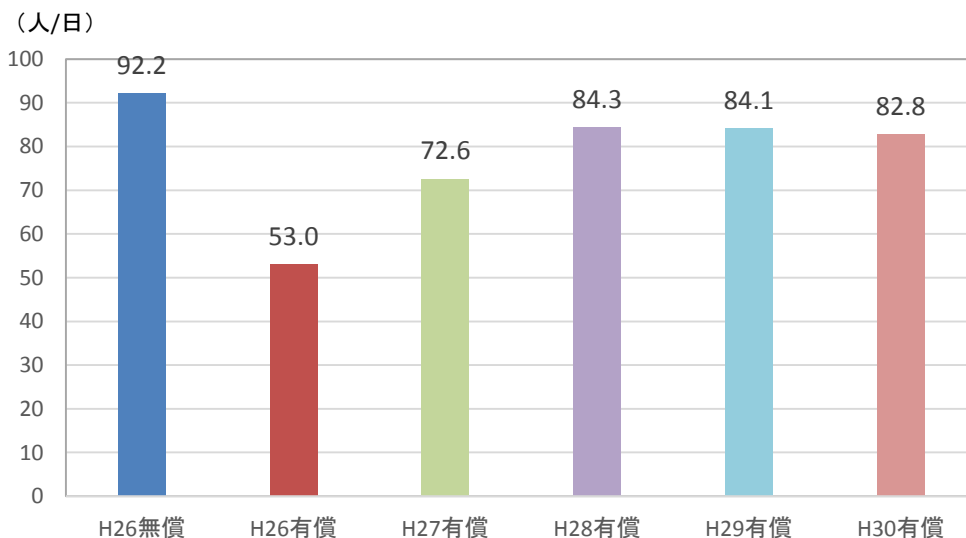


図-8.「おでかけなんじい」の利用者数の推移(年度別)

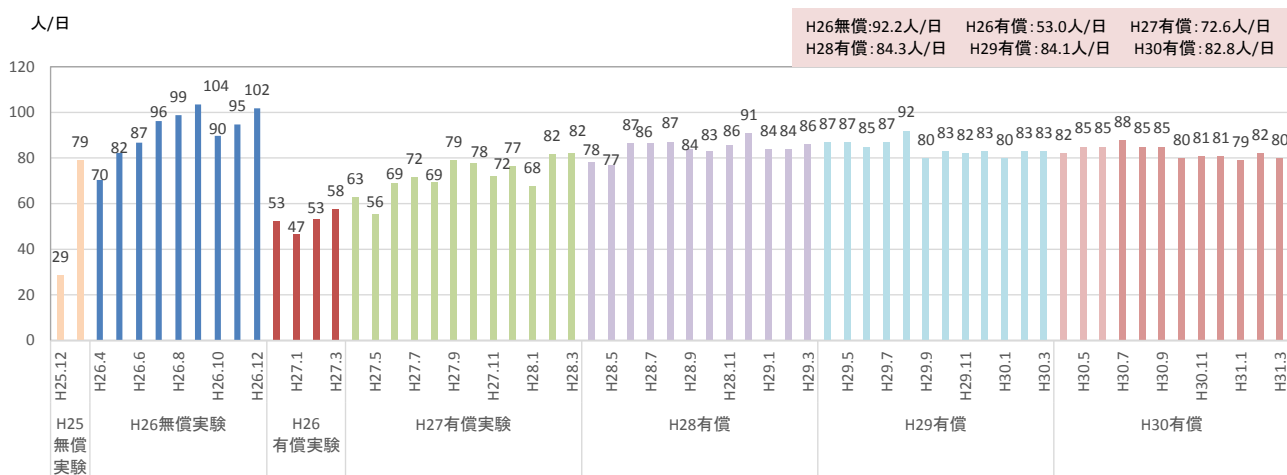


図-9.「おでかけなんじい」の利用者数の推移

### (3) 曜日別の利用状況

●平成 30 年度の利用状況を見てみると、平日は 94～95 人前後の横ばいで推移していますが、土曜日、日祝日は、平成 29 年より減少しており、利用者が多い平日と利用が少ない土曜日、日祝日の差が拡大しています。

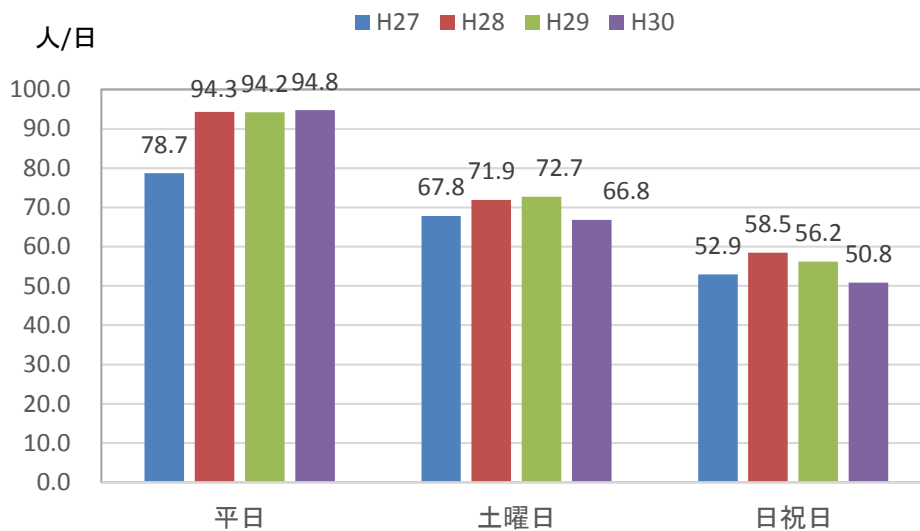


図-10.曜日別の「おでかけなんじい」の利用者数

## 2.4 利用者の属性

### (1) 性別の構成

- 平成 30 年度における男女比は、23：77 と利用者の 8 割近くを女性が占めています。
- 平成 29 年度に比べると、女性の割合がさらに 3 ポイント高くなっています。

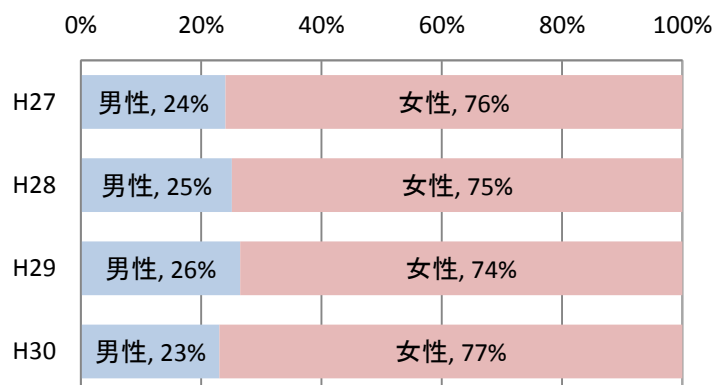


図-11.利用者の性別の推移



## (2) 年齢構成

- 平成 30 年度における利用者の年齢構成は、「75～79 歳」が 17%、「80～84 歳」が 14% と高齢者の利用が多く、65 歳以上も含めると全体の 61%を占めています。
- 平成 27 年度からの推移をみてみると、19 歳以下の割合が 7%から 15%に増加する一方で、65 歳以上の割合が年々低下しています。なお、10 代の利用は、H27.11 からの向陽高校への乗り入れ開始により増加しています。

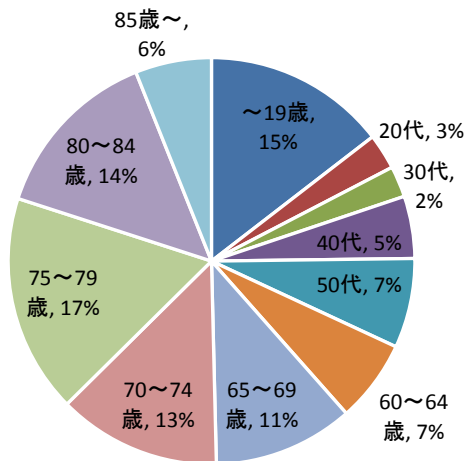


図-12.利用者の年代(平成 30 年度)

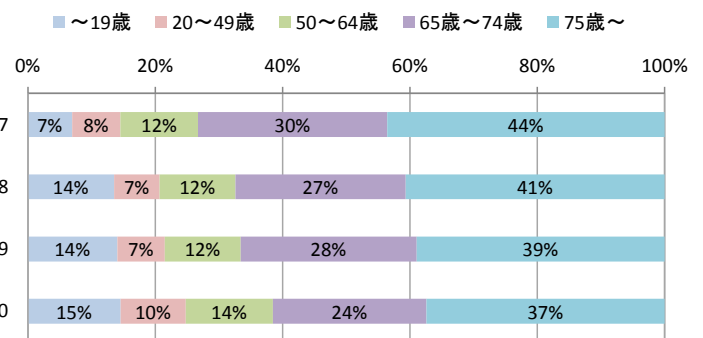


図-13.利用者の年代の推移

## (3) 市民と観光客

- 平成 30 年度における市民と観光客の構成比は、市民 93%、観光客 7%となっています。
- 市民は平成 27 年度から平成 28 年度にかけ 12.4 人/日と大きく増加、以降は 78.0 人/日前後で推移しています。
- 観光客は昨年度 5.4 人/日と前々年度より減少しましたが、今年度は 5.8 人/日と増加してきています。

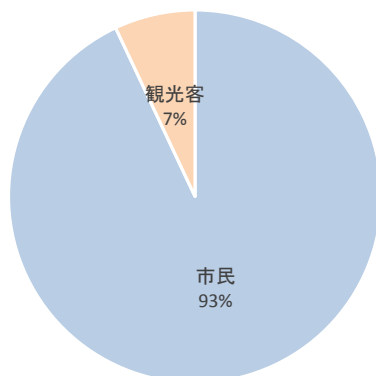


図-14.市民と観光客の構成比

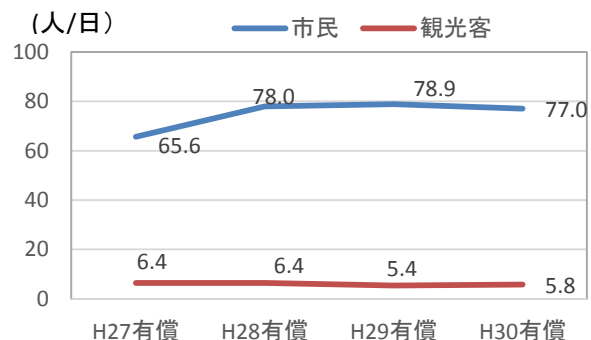


図-15.市民と観光客の利用者数の推移

## 2.5 予約の断り状況

- 平成 30 年度における予約の断り件数は、月ごとの変動傾向が大きく、1 月の 72 件/月に対し、7 月は 167 件/月と 1 月の 2.3 倍も発生しています。
- 平成 30 年度の 1 年間で予約の断りが 1,364 件（1 日あたり 3.8 件、1 便あたり 0.12 件）あり、62%にあたる 812 件が運営者都合で断っています。
- 運営者側都合の断り理由は、「満員」が 60%、「移動距離が長い」が 38%とこの 2 つにほぼ二分されています。
- 年間で 3,973 件と多くのキャンセルも生じており、1 日当たりのキャンセル件数は最も多い 7 月で 13.4 件/日と 10 件を超えています。

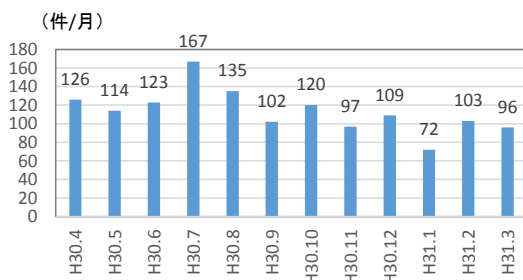


図-16.予約の断り状況の推移

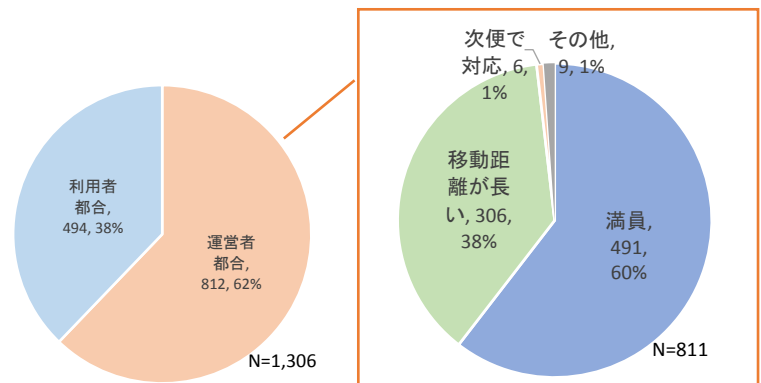


図-17.予約の断りの内訳

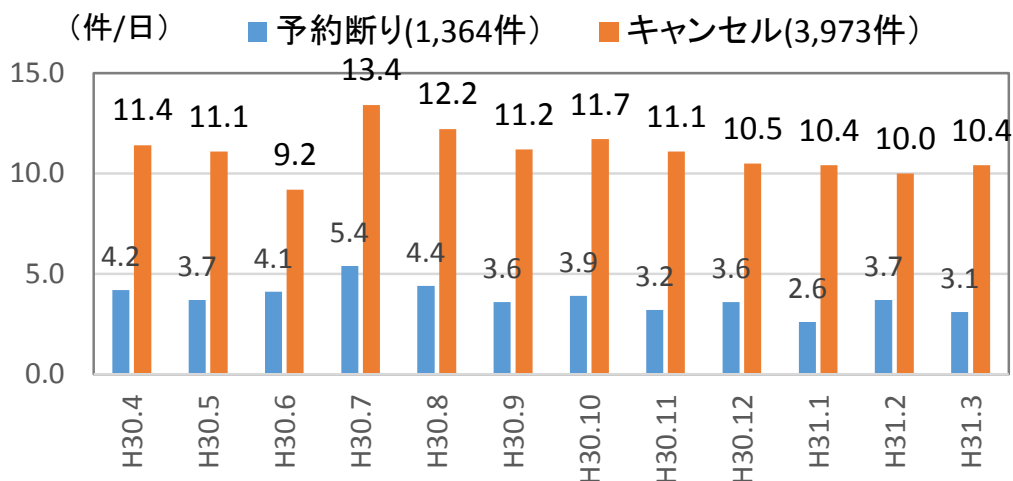


図-18.予約の断り件数とキャンセル数の推移

## 2.6 収支

- 平成 30 年度における収入は 20,700 千円であり、内訳は運賃収入が 12,000 千円と 6 割、補助金が 8,700 千円と 4 割を占めています。補助金は、これまで同様に、国の地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統補助）を活用しています。
- 支出は、49,800 千円であり、運行経費が 35,400 千円と約 7 割を占め、その他には運営経費（オペレータ、システム運用等）が 10,200 千円、その他が 4,200 千円となっています。
- 平成 30 年度における収支は、29,100 千円の赤字、収支率は 42%となっています。
- 収入と支出の運行経費及び運営経費支出は平成 29 年度とほぼ同じですが、平成 30 年度はその他で機器の更新を行っているため、その他の支出が多くなっています。

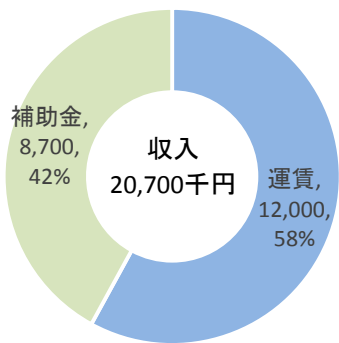


図-19.平成 30 年度における収入の内訳

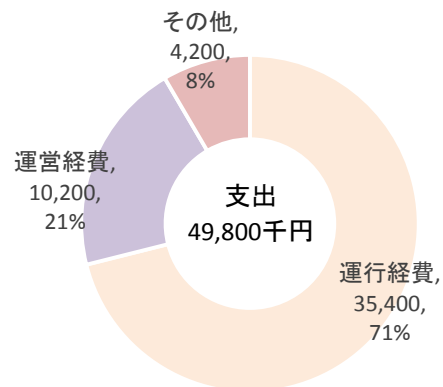


図-20.平成 30 年度における支出の内訳

■ 運賃 ■ 補助金 ■ 運行経費 ■ 運営経費 ■ その他  
(千円/年)

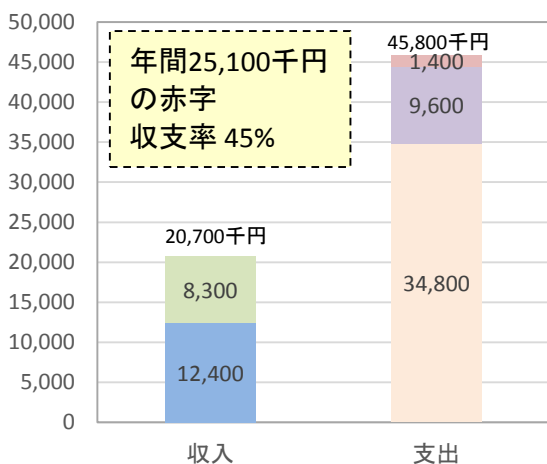


図-21.平成 29 年度における収支

■ 運賃 ■ 補助金 ■ 運行経費 ■ 運営経費 ■ その他  
(千円/年)

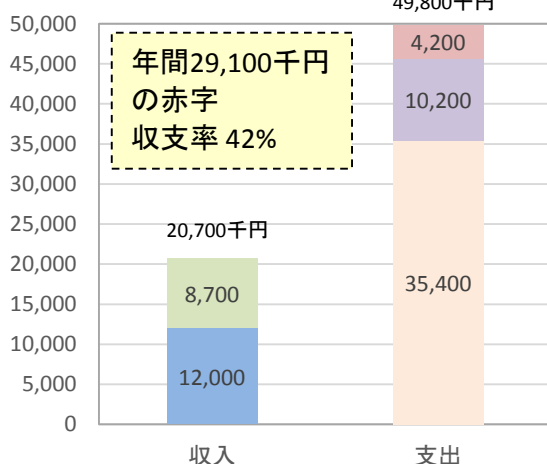


図-22.平成 30 年度における収支